

平成25年度

道 徳

会報 No. 9

心輝け 子どもたち！

名古屋市道徳研究会

会 報

道徳の時間の工夫がいっぱい！

4ページ 明るい心3年「こわされたタワー」より

(発問・板書の工夫)



15ページ 文部科学資料「たびに でて」(2年生)より (表現活動の工夫)

25ページ 明るい心4年「国産自動車の父」より (運動会との関連)

27ページ 明るい心5年「ナイスシュート」より (清掃活動との関連)

**明日からの授業に
お役立てください！！**

【CD-ROM付き】

今すぐ実践できる指導案

ワークシート・読み物資料等



目 次

は じ め に

全体テーマについて	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 1
授業づくり研究部会	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 2
テーマ研究部会	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 19
本年度のあゆみ	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 31

あ と が き

CD-ROMの内容

- ・ 子どもが“ときめく”道徳の授業
ー自ら考えたくなる指導方法の工夫ー
指導案・ワークシート集
- ・ 道徳的実践力を高める道徳教育
ー教科等と関連させたユニット学習ー
参考例集と指導案
- ・ 平成24年度研究会報（昨年度の会報）

**授業実践，現職教育などに
是非ご活用ください！**



1 テーマ

「心輝け 子どもたち！」

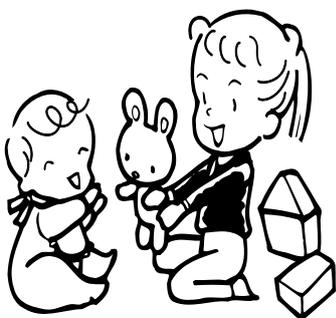
2 テーマの主旨

子どもたちの心身の成長の過程において、道徳教育に求められている役割は、大きいものとなっています。私たち教師には道徳教育の要となる「道徳の時間」をより充実したものにすることが求められています。

毎日の生活の中で、子どもたちは素晴らしい笑顔を見せてくれます。私たち教師、保護者、そして、地域の方は、子どもたちの笑顔に励まされたり、明日への活力をもらったりすることもあるはずです。子どもたちの笑顔、それはまさに宝物と言えます。

子どもたちの笑顔はどこからくるのでしょうか。それは、純真な心で、今をまっすぐに生きているところにあるのではないのでしょうか。私たちは、そのような子どもたちが、周りの人たちと笑顔いっぱい、夢や希望に向かって歩み続けてほしいと願っています。

そこで、私たちは、子どもたちが「道徳の時間」の中で、「将来の夢や希望に向かって前向きに進んでいこう！」と考えることができたときを、「心が輝いている」と捉えました。子どもたちが笑顔いっぱいの生活を送ることができるよう、実践を積み重ねていきたいと考えます。



は じ め に

先日、ある学級でこんなことがありました。私が、学期の途中に新しい学級委員となる子へ認証状を手渡すことになったときのことです。「認証状 ○年○組 △ ■□△ あなたは・・・」と読み上げたのはいいのですが、最後の認証の月日を読み間違えてしまいました。一瞬子どもたちは、くすくすと笑ったり、「違うよ」と声を出したりしました。その時です。ある子が、「そんなことしたら、失礼だよ。後で言えばいいんだよ」と声を発したのです。周りの子たちもすぐに「あっそうだ！」という表情です。思わず私は、「いやあ、ごめんごめん、校長先生が悪かった、悪かった」と平謝りです。

この時、私は、声を発してくれた子は、何と意思やりのある子だろう、また、学級の子どもたちも何と素直な子どもたちだろうと思いました。後で担任の先生にこの意思やりのことを聞きました。すると、一月程前に「フィンガーボール」の授業したからかなあ、ということでした。

道徳の読み物資料「フィンガーボール」の話をご存知でしょうか。

ある国の女王様が、外国からのお客様をもてなすためにパーティーを開きました。食事の最後に果物が出ました。お客様は、一緒に置かれたフィンガーボール（果物をむいた後に手を洗うためのもの）の水を飲んでしまいます。女王様は、その様子を黙って見ていましたが、自分も知らん顔をして、フィンガーボールの水を飲んでしまいます。女王様は、お客様が恥ずかしい思いをされないようにと考えて、水を飲んだという話です。
(指導内容「思いやり・親切」)

子どもたちの心の中には、本来様々な種（「人を思いやろうとする種」「粘り強く頑張ろうとする種」「約束やルールを守っていこうとする種」等々）が埋まっていると思います。その種に水や栄養（道徳教育の要となる道徳の時間の指導や学校教育全体で行われる道徳教育）を与えていかないと、種のままに発芽せず、幹にも花にもなりません。

毎週、毎回、こつこつと水やりの世話をし、栄養を与えていくことは、とても根気が要り、骨の折れる仕事ですが、発芽し、大きく育つ幹や開く花を見るにつけ、「大きく育ったなあ、奇麗な花を咲かせてくれたなあ」と心しみ、癒され、努力のかいを感じる人が多いものです。

前述の学級の例は、まだまだ、大木・大花ではありませんが、種から発芽へ、あるいは、つぼみから開花へという段階を、一つ大きく伸びた子どもたちの心の成長と感じられ、担任の日々の努力に感謝するとともに、道徳の時間の指導や学校教育全体で行う道徳教育の重要性を改めて感じた一瞬でした。

道徳の教科化の動向が気になるころですが、学級担任が「道徳教育の要としての道徳の時間の指導をすること」「学校教育全体を通じて道徳教育が行われること」に変わりはありません。

名古屋市道徳研究会は、名古屋市の道徳教育発展と充実のために、指導される先生方のお役に立てるように、長年に渡って研究を深めてきています。本年度も先生方にすぐに使っていただけるようにと、本会報や指導事例等を掲載した CD-ROM を付録としました。ぜひ、ご活用ください。また、実践後の感想をお聞かせくだされば幸いです。

最後になりましたが、研究の推進並びに会報刊行に際して、ご指導ご助言くださいました皆様方に厚くお礼申し上げます。また、本研究会の役員・部員の皆様のご努力に敬意を表するとともに、心から感謝を申し上げます。

平成26年1月

名古屋市道徳研究会顧問
名古屋市立陽明小学校長
安 田 隆



子どもが“ときめく”道徳の授業

～自ら考えたくなる指導方法の工夫を通して～

I 子どもが“ときめく”姿とは…

本年度の授業づくり研究部会では、子どもが“ときめく”姿を次のように捉えました。

- 身をのり出して、発言をしようとしている。
- 主人公の姿を通して、自分のことを夢中で語っている。
- 道徳の授業で学んだことを日常生活の中でやってみようとしている。
- 授業が終わった時に話題が尽きずに、いつまでも授業のことを話している。

このように自ら考えたくなるような姿が道徳の時間であふれていくためには、子どもの集中力が持続することが大切だと思い、指導の工夫を追求していこうと考えました。

II 基本的な考え

昨年度、本部会では、「指導方法の工夫を生かした授業づくり」について研究をしてきました。昨年度の成果として、道徳の時間で様々な工夫をすることで、子どもたちの発言が増えたり、道徳の時間を楽しみにするようになったりしたことが挙げられます。しかし、「発言を引き出せるものの『強引に』ねらいに迫ってしまった」「人ごとのような話し合いに終始し、『自己の生き方』を考えさせられない」などといった課題も出てきました。

部員の願い

子どもたちが、自分とは関係がないかのように発言をするのではなくて、自分自身の生き方を考えるような発言をさせたい。

部員からこのような願いが多く出されたために、部会ではどのような方向性で研究を進めていくかについて話し合いました。

部会での話し合い

導入で何を考える授業かを子どもたちの心に落とし、集中力を高めることが必要では・・・

資料の中に隠れている子どもたちの課題を探し出すことが必要では・・・

子どもたちの集中力が持続し、自ずと自分の経験を振り返る工夫が必要では・・・

これらの話し合いを基にして、今年度は次のことを目指した授業づくりを行い、昨年度の課題を克服していこうと考えました。

目指す授業

「導入」から「終末」に至るまで、
子どもたちの集中力が持続する指導の工夫を生かした授業

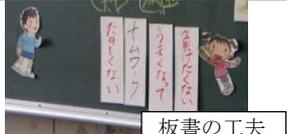
本年度、授業づくり研究部会では、子どもたちが「導入」から「終末」に至るまで集中力を持続させ、自ら「自己の生き方」を考えたいとする指導の工夫を生かした授業づくりについて研究を進めました。「導入」から「終末」に至るまで集中力が持続することで、子どもたちが自ずと考
え、“ときめく”姿になるのではないかと考えました。

道徳教育の必要性が高まっている「今」だからこそ、子どもが“ときめく”姿を目指してい
きたいと思い実践を進めてきました。

Ⅲ 子どもの集中力が持続する指導の工夫

(資料「ナイスシュート」5年 2-(3) 信頼・友情、男女の協力を例にして)

< T：教師の発問 C：予想される子どもの発言 >

導 入	<p>工夫①…発問の工夫</p> <p>子どもの課題意識を持続させる入口として、導入では次の三つの視点に留意していき ます。</p> <p>〈<u>学習の雰囲気をつくる導入</u>〉 〈<u>価値理解を助ける導入</u>〉 〈<u>資料理解を助ける導入</u>〉</p> <p>これら三つの視点を意識した導入にすることで、子どもたちの集中力が持続するきっ かけになる導入になると考えます。</p>
	<p>発問例</p> <p>T：(写真を提示しながら) 野外活動中に、<u>男女一緒のグループ</u>で飯ごう炊さんやオリ エンテーリングをしている時、どんな気持ちでしたか。</p> <p>C：疲れるな。 C：ゴールできるか不安だな。 C：みんなで協力できて楽しいな。</p>
展 開	<p>T：よし子さんのチームの練習を見た時、主人公はどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>工夫②…板書の工夫</p> <p>子どもたちが導入で抱いた課題について、資料をもとに話し合うことで解決をしてい きます。その際、資料に隠れている子どもたちの課題を意識して発問を考えていきます。</p>
	<p>発問例</p> <p>T：男女の溝を埋めたのは、何でしょう。</p> <p>C：負けたくない。 C：男女で一緒に練習をすると上手になる。</p> <p>C：チームワークがよくなると、モチベーションが上がり練習も楽しくなる。</p>  <p>板書の工夫</p>
開 閉	<p>工夫③…自己の生き方を考える工夫</p> <p>子どもたちが抱いた課題について、資料を通して追求し、さらに自分の問題として考 えていくためにここでは、主人公自身の生き方を考えさせていきます。</p>
	<p>発問例</p> <p>T：男女で協力しようと頑張った主人公をどう思いますか。</p> <p>C：男子に思い切って話し掛けたのがすごい。自分にはできないかも。</p> <p>C：逃げずに勇気をふりしぼった主人公のように、私も勇気を出してうまくいったこと があった。</p>
終 末	<p>T：授業の感想を「今までは」「これからは」という言葉を使ってまとめましょう。</p>

これら「導入」「展開」で発問や板書の工夫をすることで、子どもたちの集中力が持続し、自
分自身の生き方について生き生きと考え、子どもが“ときめく”授業を目指していきます。

IV 授業実践（全体研究）

※ 指導案は CD-ROM 参照

1 主 題 「察する心」 2 - (2) 思いやり・親切

2 ねらい 過ちを犯した人の心境や立場を考え、進んで相手を思いやる言動をとろうとする
気持ちを高めるようにする。

3 資 料 こわされたタワー（出典：「明るい心」3年 県教振）

4 資料の概要

よしおは、図工の時間に竹ひごやマッチ棒を使ってタワーを作成した。作業の細かさに途中でやめようと思ったこともあったが、最後まで作り上げることができた。

ある日の放課、整頓係のきよしがロッカーの上の作品を整頓していた。きよしのひじがよしおのタワーに当たって、タワーを落として壊してしまう。きよしは壊れたタワーと竹ひごを持ってきて「ぼく作るからごめんね」と言った。だが、よしおにはきよしを許す気配がみじんも感じられなかった。

きよしといさむがずっと直している姿を見てよしおも直す気になってきた。最後によしおはきよしの思いを察し「きよしくん、ごめんね……。」と言い、自分のこれまでの態度を謝罪する。



タワーの完成場面



タワーを直す場面

5 目標達成までの指導の工夫

工夫① 発問の工夫

相手の立場に立って考える視点をもたせるよう「この時、相手はどんな気持ちでしょうか。」と発問をする。

工夫② 板書の工夫

よしおの心が変わるきっかけになった意見を子どもたちが発表して、教師がカードに記述します。前後の黒板をロープでつなぎ、ロープにつるしたよしおの表情絵の後ろに、記述したカードを貼っていき



ます。よしおの表情絵の後ろに、ある程度カードを貼ることができたら、よしおの表情絵を一気に背面黒板のきよしに近づけて、よしおの背中を押したイメージをもたせていきます。

工夫③ 自己の生き方を考える工夫

「みんなは『ごめんね』と言ったよしおさんのことをどう思いますか。」と問い掛けることで、子どもたち自身が自己の生き方について考えさせるようにしていきます。

【実践の内容】 〈T：教師の主な発問 C：主な子どもの発言〉

相手（壊した側）の立場に立って考える視点をもたせる

導入



T：自分の大事な物が壊されてしまった時、壊した人はどんな気持ちでしょうか。



C：わざとじゃないんだけど。何で？



【発言する子ども】

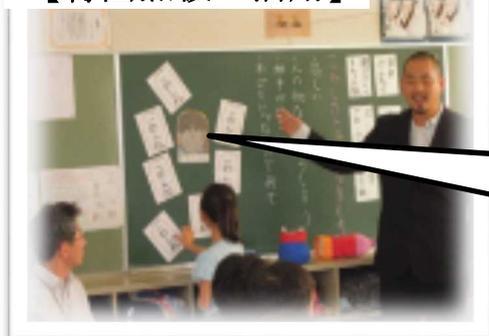


C：あっ！壊してしまった。人の物なのにどうしよう。

《考 察》

「壊した人」と「壊された人」の立場を明確にするために、壊した人の気持ちを背面黒板に記述していった。「わざとじゃない」「どうしよう」などの発言が多く聞かれたことから、子どもたちは、壊した人の立場に立って、考えることができていたと考える。

【背面黒板の活用】



空中ロープ…前面黒板と背面黒板を結んだもの



背面黒板のきよしの場面絵の周りにきよしの「ごめんね」という気持ちを多数貼っていった。

展開3



も気になる

きよしのこと

いけなかった

自分もちょっと

ら手伝おう

壊れやすいか

いから

わざとじゃないな

前面黒板に記述したよしおの気持ちを背面黒板と前面黒板をつないだロープにつるした。つるしたよしおの気持ちを動かし、きよしに歩み寄るようにした。

《考 察》

背面黒板と前面黒板を使用して、それぞれの黒板をロープでつないだ。子どもたちは瞬きもせず移動するカードを目で追っていた。そして「もう少し」などのつぶやきから徐々にきよしとよしおの気持ちが歩み寄ることを捉えさせることができ、子どもたちが本気になって、二人の気持ちをつなごうとする姿を見ることができた。

よしお（壊された側）の心が変わるきっかけを考える

展開1



T：よしおさんは、なぜそんなに怒るのでしょうか？



C：一生懸命作ったからだと思います。

T：どれくらい一生懸命？

C：（両手を広げて）このくらいかな。



C：のり付けするのにずいぶん苦労したからです。

T：どれくらい苦労したの？

C：ものすごく長い時間がかかるくらい苦労しました。



C：やめてしまおうと思ったけど、あきらめずに作ったから。

T：なぜ、やめてしまおうと思ったのでしょうか？

C：細かい作業が続き、疲れてしまったからだと思います。

《考 察》

「一生懸命に作った」「苦労したから」などの発言からこの発問によって、よしおの怒りの原因に子どもたちは気付いていくことができた。教師の問い返しの発問に対してすぐに答えることができたり、他の子ども反応をしてつぶやいたりする姿から、集中力が持続していることをうかがうことができた。

【前面黒板の活用】



展開2

T：この「ごめんね」を見ているとどんな気持ちになってきますか？

C：何度も直している姿に。ごめんね。
C：自分だけ直さないのは、（悪いから）

主発問



T：さっきまで怒っていたのに、よしおさんも直そうと思ったのはなぜでしょうか？



C：自分もちょっといけなかったと思った。

T：どこがいけなかった？

C：にらみつけたのはいけなかった。



C：わざとじゃないから

T：最初からわざとじゃないと分かっていたよね。

C：大切なことに気付いたからだと思います。



C：細い所から崩れやすいから自分も手伝おうと思った。

T：壊れやすいという理由だけで直したの？

C：自分もタワーのことだけを気にして、きよしさんのことは気にしていなかった。

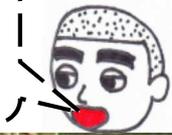


T：みんなは、「ごめんね」と言ったよしおさんのことをどう思いますか？



C：壊された方なのに謝るのはやさしい。

C：もっと早く「ごめんね」と言ってあげればいいのに。



T：こんな人はクラスにいますか？

C：私だったら、最初にいいよと言って、手伝うと思います。



自分の事を語る様子

C：自分だったら少しの間しゃべれない。自分からは謝らずに次の日まで考えてしまう。

《考 察》

授業の終盤での発問。子どもたちは発問されると隣同士で相談したり、力強く挙手したりして、考え続けていた。子どもたちの集中力が持続している証ではないかと感じた。また、この発問で「私なら…」や「僕だったら…」などの発言が相次ぎ、自分を語る姿を多く見ることができた。

【実践を振り返って】

発問の工夫では、最初に壊した人の気持ちを考えた後に、壊された人の気持ちを考えていったことで、相手の気持ちを常に意識しながら考えていくことができた。

板書の工夫では、前後の黒板やロープを使った掲示物を活用したことで、登場人物のその場その場における状況をつかみやすくなった。

自己の生き方を考える工夫では、自己の生き方について、自分ならというように考えていくことができた。

〈授業後の子どもの感想1〉

今日の授業では、壊された側の人の気持ちと壊した側の人の気持ちをじっくりと考えることができました。これからは自分がどちらの立場になっても相手のことを考えていきたい。

〈授業後の子どもの感想2〉

今日の授業でびっくりしたことは、ロープに紙がぶら下がっていたことです。自分も物語の中にいるような気持ちになりました。

〈授業後の子どもの感想3〉

自分だったらやっぱり、最初に謝ってしまうと思います。よしおさんはどうしてそこまで許せなかったのだろう。でも最後はやさしかったから、私もやさしさをまねしていきたいです。

協議会 ～質疑応答～



今回の研究では、子どもがときめくことをテーマに掲げていますが、本実践で、子どもがときめいた瞬間はどこですか？



子どもがときめくために有効であった手だては何だと思えますか？

《回答》

「よしおさんが怒っている気持ちを考える場面」「きよしさん『ごめんね。ごめんね。』と言った時を考える場面」で、子どもの顔が一斉にこちらを向いたので、ときめいたと思います。

ロープは、子どもがときめくのに有効であった手だての一つであると感じました。なぜならば、子どもたちが目を輝かせて、ロープに掛かる短冊を見つめていたからです。



道徳の授業では、場面ごとに追って、発問をすることが多いように思います。しかし、今回は場面ごとではなくて、「なぜよしおさんは怒っているのでしょうか」のような場面を特定しない発問をしました。その意図と効果を教えてください。

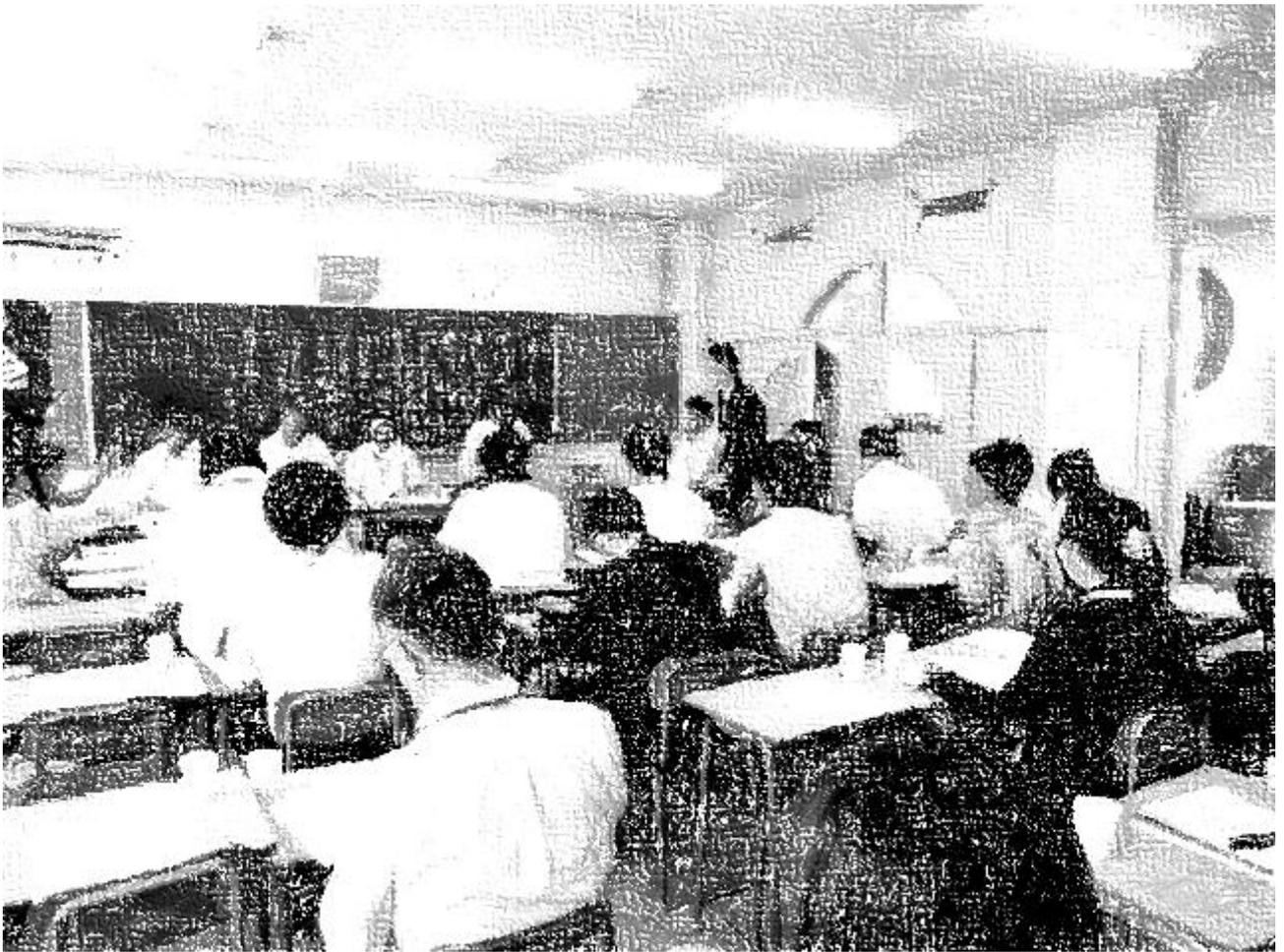
《回答》

場面を特定してしまうと子どもがその場面にとらわれ、資料の本文から答えを探そうとしてしまうこともあります。子どもたちが自由な発想で考えることができるようにと期待しました。

また、今回の資料は、怒りが持続している資料のため、全体を見通した発問をすることが適当であると部会で話し合いました。

ご指導・ご助言（○成果 ●今後への課題）

- ねらいに迫っていくために、子どもの発言を予測して「問い返しの発問」を用意されていたことはよかった。
- 子どもが考えやすいような安心感が教室にあふれていてよかった。
- 今回は、背面黒板と前面黒板を活用したが、さらに子どもの発言を生かす板書の在り方を考えていっていただきたい。
- 道徳の授業で読み物資料を扱う難しさがあります。「心のノート」にも読み物資料が入ると言われているので、さらなる読み物資料の扱い方を研究してほしい。



(研究授業の協議会の様子から)

V 各部員の実践

集中力が持続する 資料提示の工夫 ⑪

小学校1年生の実践

【主 題】「あたたかい心で」 2-(2) 思いやり・親切

【ねらい】友達や幼い子に、温かい心で接し、親切にしようとする気持ちをもてるようにする。

【資 料】「はしの うえの おおかみ」(出典：「あかるいこころ」1年 県教振)

【資料の概要】



橋の上で小さな動物に意地悪をしていたおおかみ。



ある日、自分より大きなくまに親切にされる。



自分も他の動物に親切にできるようになる。

工夫のポイント

紙芝居で資料を提示して、集中力が持続する工夫です。

- 「あかるいこころ 1ねん」にある資料と同じ物語の紙芝居を用意して読み聞かせをします。
- 紙芝居を場面絵として活用した板書により、心変わりしたおおかみの気持ちを深く考えることができます。

【実践の内容】(抜粋)

〈T:教師の主な発問 C:主な子どもの発言〉

[展開]



資料の紙芝居を読み聞かせた後、各場面の絵を使った板書をして授業を進めていった。



T:「つよいつよいおおかみさまだぞ。」と言ってうさぎを追い返したおおかみは、どんな気持ちだったでしょう。

C:腹が立っている。 C:自慢している。
C:おもしろい。

T:くまに出会って、あわてて「わたしがもどります。」と言ったおおかみは、どんな気持ちだったでしょう。



C:怖い。
C:食べられたらいやだ。
C:殺される。
以下、「逃げよう」など



紙芝居を生かした板書

T:いつまでもくまの背中を見ていたおおかみはどんな気持ちだったでしょう。

C:いい人だな。
C:さっきは悪いことしちゃったな。他に誰か来てくれないかな。
T:他の人が来たらどうするの?
C:くまと同じことをする。
C:また、くまに会いたいな。
T:どうしてまた会いたいの?
C:いいところを見せたいから。

T:「どっこいしょ。えへん。」と、うさぎを抱き上げて道を通してあげたとき、おおかみはどんな気持ちだったでしょう。

C:気持ちいい。
T:どうして気持ちいいの?
C:優しくしたから。
T:みんな優しくすると気持ちいい?
(多数の子どもがうなずく)
C:また来てくれるかな?
T:また来たらどうするの?
C:同じことをする。

【工夫の成果】

紙芝居を読み聞かせたことで、子どもたちは目を輝かせながら話に聞き入っていた。さらに、板書にも紙芝居の場面絵を使い、主人公の気持ちを考えさせたことで、子どもたちがおおかみの気持ちを真剣に考えることができ、集中力が持続していた。

【主 題】「もっと好きになったよ」 2-(3) 信頼・友情

【ねらい】相手の立場に立って考え、友達のことを理解し、信頼し助け合っていこうとする気持ちを高めるようにする。

【資 料】「たまちゃん、大すき」 (出典:「どうとく3」東京書籍)

【資料の概要】

たまちゃんが約束の時間に現れなかったことが、許せないまる子。

お家の人に頼まれた仕事を断れなかったたまちゃんの気持ちに気付く。

お互いに「ごめんね」と謝り、タイムカプセルを再度作る。

工夫のポイント

資料を理解しやすくなり、集中力が持続する工夫です。

- 資料の読み聞かせを紙芝居で行います。
- 発問に合わせて、紙芝居を「場面絵」として活用します。

【実践の内容】(抜粋)

〈T:教師の主な発問 C:主な子どもの発言〉

【導入】

T:友達とけんかしたとき、みんなはどう思いましたか。

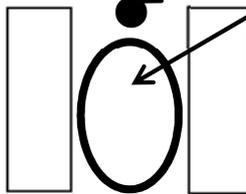
C:悲しい。 C:早く仲直りがしたい。

「今日は、お友達とけんかをしてしまった人をゲストに呼びました」と言って、廊下に隠してあった、まる子のお面を被せたパペット人形を登場させた。また、「まる子の友達って誰でしょう」と尋ね、「たまちゃん」と答えさせることで、まる子とたまちゃんは、友達であるということをおさえた。



【展開】

〈座席の形〉



座席を「コの字型」にし、空いたスペースに子どもたちを座らせ、紙芝居による読み聞かせを行った。

T:タイムカプセルを投げ捨てたとき、まる子はどんな気持ちだったでしょう。

C:うそつき。 C:もう友達じゃない!

C:約束を破ったから、遊びたくない。

T:はっとしたとき、まる子はどんなことに気付いたのでしょうか。

C:たまちゃんは悪くないんだ。

C:やっぱり、「ごめん」って言おう。

T:涙を流しながら、まる子はどんなことを考えていたでしょう。

C:たまちゃんの気持ちが分かったよ。

C:これからもずっと友達だよ。

発問するときに、紙芝居を場面絵として、黒板に貼った。

〈板書の様子〉



T:友達のことが、もっと好きになったり、仲良くなったりしたときは、どんなときですか。

C:仲直りして、ほっとした。

C:2年生のときより、たくさん話せるようになって、うれしかった。

【工夫の成果】

普段の授業よりも挙手をする子が多く、最後まで集中力の持続を感じた。

【主 題】「命の尊さ」 3－（1） 生命の尊重

【ねらい】 ロバの行動とその基にある気持ちを考えることで、生命あるものすべてを慈しむ気持ちを高めるようにする。

【資 料】「ヒキガエルとロバ」 （出典：「明るい心」4年 県教振）

【資料の概要】



二人はヒキガエルに石をぶつける。



ロバは、ヒキガエルをひかないようによける。



ロバの行いを見て、二人は自分たちの行動を考える。

工夫のポイント

資料に関わる写真を使って、集中力を持続させることができます。

- 導入で、資料への関心を高めることができます。
- 何度もヒキガエルの写真を提示することで、集中力を持続させることができます。

【実践の内容】（抜粋）

〈T：教師の主な発問 C：主な子どもの発言〉

[導入]

T：みんなの机の中や下に生き物の写真があります。探してみましよう。

C：何だろう。

C：えへ、どこにあるかな。



道徳の時間の前に、子どもの机の中や下にB6サイズの紙に印刷したヒキガエルの写真を配付しておく。



ヒキガエルの写真

机の中や下からヒキガエルの写真が出てくることで、授業への関心が高まる。

T：ヒキガエルの写真を見てどんなことを感じましたか。

C：気持ち悪い。 C：かわいい。

C：ぞわっとする。 C：気色悪い。

ヒキガエルの写真を間近で見せることで、子どもは、主人公のアドルフとピエールのように、ヒキガエルを軽んじるイメージをもたせる。



また、黒板にも、子どもと同じ写真を拡大した物を貼るようにする。

[展開]

T：アドルフとピエールはどんな気持ちでヒキガエルに石をぶつけていたのでしょうか。

C：びっくりして投げた。

C：ふざけ半分。 C：楽しくなってきた。



導入で使用したヒキガエルの写真を再度、黒板に提示する。

T：最初に石をぶつけていた二人が、ロバの姿を見て、持っていた石を落としたのは、どんな気持ちがあったからでしょう。

C：ヒキガエルにすごく悪いことをした。

C：同じ生き物同士だし、反省した。

T：どんなことを反省したの？

C：石を投げたこと。

T：どうして、石を投げたことを反省したんだろう。

C：人間もヒキガエルも同じ生き物同士だから、命は大事にしなくちゃと思ったから。

【工夫の成果】

導入で「気持ち悪い」などヒキガエルを軽んじる考えをもっていた子も「同じ生き物」という考えをもつことができた。

何度か写真を提示することで、ヒキガエルから目を背けず、集中力を持続させて考えることができたと考える。

【主 題】「家族とのつながり」 4－（5）家族愛

【ねらい】認知症になったおばあちゃんに対すとも子の姿を通して、相手の気持ちを理解し、家族の一員として互いを尊重し合おうとする心情を高めるようにする。

【資 料】「おばあちゃんのさがしもの」（出典：「明るい心」6年 県教振）

【資料の概要】

大好きなおばあちゃんが不思議な行動をするようになることに気付く。



おばあちゃんの姿を見て悩む。

今のおばあちゃんを受け入れ、家族の一員として大切にしていきたいという気持ちになる。

工夫のポイント

子どもたちの心に語り掛けるような発問構成で、集中力を持続させる工夫です。

- 「(主人公は)～のとき、どんなことを感じていた(気持ちになっていた)でしょう」と問います。
- 場面ごとに発問することで、主人公の気持ちの変化を追うことができます。

【実践の内容】(抜粋)

〈T:教師の主な発問 C:主な子どもの発言〉

[導入]

導入では、祖父母と過ごしているときの気持ちを考えさせた。その後、教師が資料名を知らせ、読み物資料の「明るい心」を読み聞かせた。

T:わたしは、おばあちゃんといるとき、どんな感じがしているでしょう。

C:楽しい。 C:ほっとする。

C:いろいろなことが分かってわくわくする。

[展開]

展開では、場面ごとに場面絵を提示しながら主人公の気持ちを考えさせた。

T:大好きだったおばあちゃんのおもしろい行動を見て、わたしはどんなことを感じていたでしょう。

C:どうしたの。 C:わけが分からない。

C:わたしのこと、嫌いになったのかな。

C:おばあちゃんが変わる。

C:お母さんの言うとおりにんだけど、心配。

T:「みんなで優しくしてあげましょうね」とお母さんに言われたとき、わたしは、どんな気持ちになっていたでしょう。

C:家族なんだから当たり前。

C:わたしにできることないかな。

T:おばあちゃんが古い人形を抱き上げて子守歌を歌っているとき、わたしは、どんな気持ちになっていたでしょう。

C:前のようにあったかい。

C:おばあちゃんといるとやっぱりほっとするな。

おばあちゃんにどんなことをしてあげたいと思っているかを問い、家族の一員として大切にしたいと思う主人公の気持ちを確認した。

【工夫の成果】

導入で、どう答えるのか戸惑っていた子どもは、「心に語り掛ける発問」を繰り返されることで、体を前のめりにして積極的に答えるようになってきた。集中力が高まり、持続していると感じた。

【主 題】「親友と言える関係」 2-(3) 信頼・友情

【ねらい】 友達どうし互いに気持ちよく付き合うことの大切さを感じ取り、友達を育んでいこうとする気持ちを高めるようにする。

【資 料】「メールの返信」(出典:「明るい心」6年 県教振)

【資料の概要】



ユミとナナは友達で、メールのやりとりを頻繁に行っていたが、母親と9時以降にはしないことを約束する。

ユミが、ナナに返信ができなかったことから、二人の関係が悪くなる。

ユミはナナにメールで謝ろうとするが、気持ちが伝わらず、分かってもらえないことから、友達関係について考え込む。

工夫のポイント

主人公の気持ちを考えて話し合うときに、互いの考えを比較し、考えを深めることで集中力を持続させる工夫です。

- 縦軸が気持ち、横軸が行動を示す四分割のグラフと吹き出しを使って、主人公の気持ちを表します。
- グラフを比較し、話し合うことで、主人公の気持ちを深く考えることができます。

【実践の内容】(抜粋)

(T:教師の主な発問 C:主な子どもの発言)

[導入]

T:携帯電話が必要と思うのはなぜですか。

C:次の日の持ち物を聞くことができるから。

C:友達といろんなことが話せるから。

「小学校6年生がほしいもの」の女子の1位が、「携帯電話」となったことを示した。

[展開]

T:夜9時以降に「ナナ」がメールを送ってきたことに対して主人公はどんな気持ちだったでしょう。

C:何で怒っているんだろう。朝会ったときにまた言ってくればいいのに。

C:どうしよう。ナナも9時以降は送れないこと知っているはずなのに。

T:主人公は、携帯電話の画面を見つめたまま、どんなことを考えたでしょう。

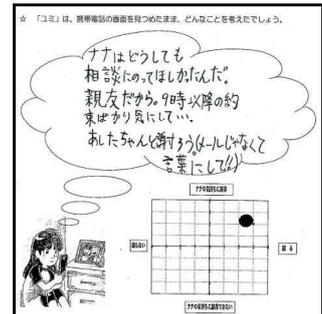
30分

① 気持ちを表す場所に印を付けます。

② グラフに対応する具体的な気持ちを吹き出しに表します。

③ グラフを見せ合い話し合います。

グラフを比較し合いながら話し合うことで、「友達関係」について葛藤する主人公の気持ちを、深く考えさせることができ、友達関係において、相手の気持ちを考えることの大切さに気付かせることにつなげることができた。



児童の書いた道徳プリント

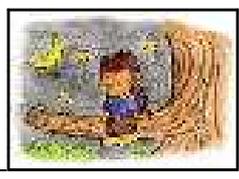
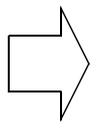
【工夫の成果】

携帯電話を見つめている時「悩んでいる」と多くの子どもが発表した。しかし、グラフの気持ちの位置を表すと、少しずつ違った場所に印をつけた。この違いから、話し合いが活発になり集中力がさらに持続していった。

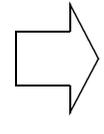
【主 題】「あいさつは心のリボン」 2－（1）礼儀
 【ねらい】気持ちのよいあいさつに気をつけて、明るく接する気持ちを高めるようにする。
 【資 料】「たびに でて」（出典：「小学校道徳 読み物資料集」文科省）
 【資料の概要】



ケイタがあいさつを面倒に感じて島を出る。



ケイタがうまく話しかけられなくて悩む。



ケイタがあいさつを進んでする。

工夫のポイント

登場人物になりきって気持ちを考えることで集中力が持続する工夫です。

- ① ケイタが木の上で考えている場面を児童同士がケイタ役・月役になって演じさせる。
- ② 教師も月役を演じる。

【実践の内容】（抜粋）
 〈T：教師の主な発問 C：主な子どもの発言〉



[展開]

T：木の上で考えているケイタは、どんな気持ちだったでしょうか。

児童を2人組にしてケイタ役・月役になって気持ちを発表させ合う。その後、全員の前で役割演技をする。

C（ケイタ役）：あいさつをしたら、この島のさるたちは返事を返してくれるのかなあと考えていたんだ。

（以下、不安、怒りなど）

C（ケイタ役）：みんなが返事をしてくれないから、どうしようかなと考えていたんだ。

T：どうしてみたいと思ってるの？

C：うーん、分からないなあ。

T：あいさつ島のことも思い出してたんだよね。どんなことを考えていたの？

C：（しばらく考えて）やっぱりあいさつが大切のかなあって考えてたんだ。ぼく、他のさるにあいさつしてみようと思うよ。

まず児童同士で役割演技をしたことで、自分の考えをしっかりとつことができた。さらに、教師と児童で役割演技を行い、教師が会話を続けていくことで、より授業のねらいに近い考えを引き出すことができた。

[終末]

心のノートの「あいさつは心のリボン」を活用して教師が話をした。児童からは「あいさつは人と仲良くなるための言葉なんだということが分かった。」という意見が出された。

【工夫の成果】

「先生、ケイタがあいさつをしようとした気持ちが分かってきました。」とある子が目を輝かせて実践後に話し掛けてきた。この姿から役割演技の有効であり、集中力が持続していたと感じた。

【主 題】「みんなのための仕事」 4—(2) 勤労

【ねらい】働くことの喜びを知り、みんなのためになる仕事をしようとする気持ちを高めるようにする。

【資 料】「パンやのしごと」(出典:「明るい心」3年 県教振)

【資料の概要】



朝早くから働いている両親の姿を見て、主人公は手伝おうとする。



「お母さんがやるから……。」と言われ躊躇するが、手伝う。



両親から褒められ、働くことの喜びを感じることができる。

☆心情曲線とは、心情の変化を曲線で表すものです。

工夫のポイント

心情曲線を使い、登場人物の気持ちの変化を視覚的に捉え、理解しやすくなり、集中力が持続する工夫です。



【実践の内容】(抜粋)

〈T:教師の主な発問 C:主な子どもの発言〉

〔展開〕

T:お父さん、お母さんが朝早くから働いているのを見た時、どんな気持ちだったでしょう。

C:すごいなあ。

C:パンやさんの仕事をしてみたい。

心情曲線を使って手伝いたいという気持ちがあることを確認した。

T:「お母さんがやるから……。」と言われた時、どんなことを考えたでしょう。

心情曲線で手伝いたいのか、手伝いたくないのか確認し、その理由を発表させた。

C:「お母さんがやるから……。」と言われたから、やる気がなくなった。

C:忙しそうだな。

C:やりにくいなあ。でも手伝いたい。

C:たまには休んだらいいのに。

T:「行ってきます。」と言った時、どんな気持ちだったでしょう。

C:うれしい。

T:何がうれしいのかな。

C:お手伝いができたから。

C:また、手伝いたいなあ。

T:この時の気持ちはどのあたりだろう。

心情曲線で、主人公が、また手伝いたいという気持ちが高まっていることを確認した。

T:みんなのために力を合わせて働いたことはありますか。その時どんな気持ちでしたか。

C:係活動で、同じ係の友達と協力してクラスのみんなを楽しませて、うれしかった。

【工夫の成果】

実践後、「先生、私も主人公みたいにグイッと気持ちをアップしたい。」とつぶやいてきた。心情曲線のイメージが頭に残っている発言であった。そして、この実践後、今まで以上に自分の仕事を頑張る姿が見られた。

【主 題】「友達を思いやる心」2－(3) 信頼・友情

【ねらい】友達同士、互いに理解することの大切さを感じ取り、友達を思いやる心を高めようとする。

【資 料】「ないた赤おに」（出典：「明るい心」4年 県教振）

【資料の概要】

赤鬼が、村人と友達になる方法を青鬼に相談する。

青鬼をぼかぼか殴り、村人に受け入れられ、村人と友達になる。



手紙を読んで涙を流す。

工夫のポイント

友達との意見の交流をしたり、自分のこととして考えたりして集中力が持続する工夫です。

- 短冊に書いた自分の考えを友達と読み合うことで、友達の考えを多く知ることができます。
- 授業で大切であると感じたことを「五七五」の形式でまとめることで、授業を振り返り、ねらいについて考えをまとめることができます。

【実践の内容】（抜粋）

〈T：教師の主な発問 C：主な子どもの発言〉

〔展開〕

T：目にいっぱい涙がたまっているとき、赤鬼はどのような気持ちだったんだろう。

C：友達がほしい。

T：だれに対しての涙？

C：人間。 C：村人。 C：自分。

T：青鬼をぼかぼか殴っているとき、赤鬼はどのような気持ちだったんだろう。

C：本当に殴っていいのかな。痛そう。

C：ぼくは何をしているんだろう。

C：青鬼君、大丈夫？

C：痛い思いをして、人間に嫌われて、青鬼がかawaiiそうになってきた。

3分で工夫

T：手紙を読んで、赤鬼はどのようなことに気付いて、止まらないほど、たらたらと涙を流して泣いていたのでしょうか。

ぼくが人間とよく考えたの青おに君が泣きだしたのには気が付いたから

赤鬼の気持ちを短冊に書いた後、周りの友達と短冊を読み合うようにさせた。

数人の友達の短冊を読み合った後で、短冊を黒板に貼らせた。友達の短冊を読み合うことで、自分と友達の考えの共通点や相違点に気付くことができた。



〈短冊を交換する子ども〉

まおおにくんが自分のためにこんなふうに思っていることを知らなかった。

T：1時間の勉強を振り返り、大切だと思ったことを「五七五」で書きましょう。

C：青おには 赤おにを思った 親友だ

C：友達と 助け合うと うれしいな

C：友達は 助け合って 一つだよ

C：友達は はなれていても 友達だ

【工夫の成果】

「助け合わないと」「友達のために」などの言葉が実践後多く聞かれた。これは、短冊に書いたことが心に残り、実践後も意識が継続している姿であると感じた。

VI まとめ

授業づくり研究部会では、子どものときめく姿になるように、子どもたちが「導入」から「終末」に至るまで集中力を持続させ、自ら「自己の生き方」を考えたいとする指導の工夫を生かした授業づくりについて研究を進めました。その結果、次のような成果と課題が明らかになりました。

成 果

- 道徳の時間に、集中力が持続できる「発問の工夫」「板書の工夫」「自己の生き方を考える工夫」を取り入れることによって、「本時の学習内容に対する興味や関心を高めることができた。」
「人物の気持ちの動きのイメージをもたせることができた。」
「積極的に挙手をする子どもが多く、自己の生き方について意欲的に考えようとしている姿を引き出すことができた。」などの成果をあげることができた。
- 2年間に渡り、道徳の授業づくりの「発問」「板書」「話し合い」「表現活動」「書く活動」「資料提示」などの指導方法の工夫に取り組み、子どものときめく姿を数多く引き出すことができた。また、各々の実践から出てきた部員の悩みや願いについて協議することを通して、各部員の授業づくりの力が付いた。

課 題

- 実践の中には、登場人物のよさに気付くことができず、集中力が持続できなかった子どももいた。登場人物のよさにもっと目を向けられるような工夫をし、集中力を持続させて、子ども自身の生き方について考えられるようにしたい。
- 学習指導要領が例示している七つの指導方法の工夫のうち、部会で取り上げなかった「説話」によって「自分のこととしてさらに深めることができた」と思われる。

VII おわりに

「子どもが“ときめく”道徳の授業」を目指して、実践に取り組んだ部員の感想です。

今までの道徳の授業を振り返ってみると、子どもたちの発言を増やしたり、盛り上げたりすることばかり考えていました。しかし、子どもたちが心からときめくには、集中力が持続できる指導方法の工夫が必要であることが分かってきました。

同じ学校の先生にも授業参観や学校教育努力点での実践を機会に、道徳の実践をしてもらいました。「授業参観で身をのり出して発言する姿を多く見ることができた。」「子どもから『昨日の道徳の時間のことを家でも話し、家族ともっと考えた。』という言葉が聞かれた。」という感想をいただきました。

今後も、子どもも教師も心がときめく道徳の授業づくりに取り組んでいきます。
先生方の部会への参加を心よりお待ちしております。

道徳的実践力を高める道徳教育

～道徳の時間を複数時間関連させることを通して～



I はじめに

近年、いじめや不登校などの様々な教育諸問題が新聞やテレビで取り上げられています。その度に、子どもの心を豊かに育てていくための、道徳教育への期待が高まっています。特に、子どもたちが人間としてよりよく生きていく力である道徳的実践力を高めていくことが求められています。

ところが、教育現場からは「道徳の時間の中で、子どもたちの道徳的価値に対する考えをうまく深められない。」「どうしたら、道徳的価値を自分のこととして捉えさせることができるかが分からない。」など道徳的実践力を高める上での悩みが多く聞かれます。そこで、今年度本部会では、各教科、総合的な学習の時間、特別活動、学校行事など(以下、各教科等)と道徳の時間を意図的に関連させることで、道徳的実践力を高めることができなかと考えました。

具体的には、年間で複数回取り上げられる同じ道徳的価値を、意図的に2週連続となるように組み換えて、集中的にその道徳的価値について考えさせることとしました。このような、複数の道徳の時間を各教科等と関連させる「ユニット学習」を通して、自分との関わりの中で道徳的価値を捉えさせることができるようになるとともに、道徳的価値への考えを深めさせることもできると考えました。そして、それが道徳的実践力を高めることにつながっていくのではないかと考え、研究を進めてきました。

II 今年度の部会について

今年度、本部会では以下のような流れで部会を運営しました。



★ 部会の主な流れ

1 近況報告

道徳の時間の悩みや学級経営・学年行事の現状などの近況報告をしました。

2 演習

部員が行った「ユニット学習」の成果と課題について、みんなで話し合いました。また、「道徳の時間の流れ」や「発問の工夫」など、毎回様々なテーマで道徳の時間の指導法について学び合いました。

3 はじめての道徳コーナー

毎回、「道徳教育と道徳の時間の違い」「道徳の時間のねらい」など、道徳教育についての基本を学び合いました。

Ⅲ ユニット学習とは

1 ユニット学習のねらい

本部会では、「ユニット学習」を以下のように考えました。

ユニット学習とは・・・

同じ道徳的価値をねらいとする道徳の時間を2週連続で行い、その間にその道徳的価値に関連するような各教科等の学習を組み入れた一連の学習です。

1週目に行う道徳の時間では、ねらいとする道徳的価値の大切さに気付かせたり、道徳的価値への意識付けをしたりします。そして、各教科等の学習で、その道徳的価値に関連する学習や共通体験をさせます。そして2週目の道徳の時間で、それまでの学習や体験を振り返らせながら道徳的価値に対する考えをさらに深めさせていきます。

以上のように、ユニット学習では2週間という短い期間に集中して同じ道徳的価値について考えさせます。それにより、子どもたちは道徳的価値を自分との関わりの中で捉えるようになり、道徳的価値についての考えを深めることができるのではないかと考えました。

2 ユニット学習の組み方

- (1) 各教科等を通して、子どもたちに特に学んでほしい道徳的価値を選び出します。
- (2) その道徳的価値をねらいとする資料を選びます。特に2週目の道徳の時間では、各教科等で学んだ内容をどのように取り入れていくかも考慮します。
- (3) その道徳的価値をねらいとする道徳の時間を、関連させたい各教科等の学習が行われる前後2週に行います。

3 ユニット学習の例 「本当の思いやりってどんなこと？」 【対象：6年生】

月	火	水	木	金
6/10 平成25年度 6月第2・3週の場合	11	12	13 道徳① 「思いやりって何？」 <u>2-(2) 思いやり</u>	14 常時活動 ふれあいタイム
17	18 学活 「運動会を 盛り上げよう」	19	20 道徳② 「本当の思いやりについて考えよう」 <u>2-(2) 思いやり</u>	21

道徳① 「思いやりって何？」

資料「二つの投書」から、思いやりの大切さに気付く。

常時活動 「ふれあいタイム」

1年生との交流を通して、相手を思いやることの大切さについて体験する。

学活 「運動会を盛り上げよう」

運動会でを行うラジオ体操を1年生に教えることを通して、年下の子を思いやることの大切さについて体験する。

道徳② 「本当の思いやりについて考えよう」

資料「おばあちゃんの指定席」から、思いやりについての考えを深める。

IV 実践報告

働くのってお金をもらうため？ 【小学校3年生】 ～働くことの意味をじっくり考える2週間～

道徳①

「働くのって
お金をもらうこと？」
資料「パンやのしごと」
(出典：「明るい心」3年 県教振)



【ねらい】
働くことの喜びを知り、
みんなで仕事をしようとする
気持ちを育てる。

社会科

「スーパーマーケットへ
見学に行こう」



【ねらい】
スーパーで働く人にイン
タビューすることを通して、
働く人々の願いや苦勞
を知ることができる。

道徳②

「働くのって
何のため？」
資料「お手伝い」
(出典：「明るい心」3年 県教振)



【ねらい】
働くことの意味について
考え、進んで働こうとする
気持ちを育てる。

道徳①

資料「パンやのしごと」の実践紹介（抜粋）

【導入】

T：働くのは、何のためだと思いますか？

C：お金を稼ぐため。

C：家族のため。

【展開前段】

T：仕事をやり終えたとき、主人公はどんなことを
考えていましたか？

C：仕事を無事に終えることができてよかった。

C：(家族の)役に立ててうれしいな。

T：働くことで、自分がうれしくなるんだね。

【授業のポイント】

ユニットのねらいにせまる発問
を初めにする。

働くことの意味について考えさ
せる。

社会科

「スーパーマーケットへ見学に行こう」の様子

学区にあるスーパーマーケットに出掛け、店長さんにインタビューした。
「働いていてうれしいのはいつですか」という質問に店長さんが「お客の
願いに合わせて商品を作り、それを喜んでもらった時です」と答えた時、
子どもたちはお金のことばかり考えていたために、驚きの表情をしていた。



道徳②

資料「お手伝い」の実践紹介（導入～展開後段）

【導入】



スーパーマーケットに見学に行って、どんなことに気づきましたか？

店員さんは、お客さんのことを考えながら仕事をしていることが分かった。



働いている人は、大変なんだな。



【授業のポイント】

社会科の学習を振り返る。

【展開前段】（資料「お手伝い」を読んだ後）



休もうかと言われたとき、やめたい、続けたいのどちらの気持ちが強かったでしょう。

<やめたい派>

やりたくないことだったから、面倒くさい。



<続けたい派>

辛くても、お母さんの役に立ちたいな。



強要性

主人公の挿絵を提示し、その表情から揺れ動く主人公の気持ちを読み取れるようにする。

【展開後段】



働くのは、何のためだと思いますか。

役に立つことをして、周りの人に喜んでもらうため。



お客さんの願いに応えるため。



人に喜んでもらうことで、自分もうれしくなるから。



勤労に対する考えの深まりが見られるよう、道徳①と同じ発問をする。

スーパーマーケットの見学により、働くことには収入を得ること以外の価値があることに気付いた。

実践後の学級の様子は・・・



実践後なう

働くのは収入を得るためだけだと捉えていた子どもたちが、お客も自分もうれしくなることでもあると気付くことができました。そして実践後には、掃除や給食当番などに積極的に取り組む姿が徐々に見られるようになり、ユニット学習の効果を感じました。

自分の甘さに勝とう！ 【小学校4年生】
 ～よく考えて行動することの大切さについて考える2週間～

道徳①

「よく考えて行動するには」
 資料「友達のけっせき」
 (出典：「明るい心」4年 県教振)



【ねらい】
 自ら考えて度を過ぎない節度ある生活をしようとする気持ちを高める。

常時活動

「つつい追放大作戦」



【ねらい】
 弱い心に負けないで、節度ある生活をするためのよさを実感する。

道徳②

「自分の甘さに勝つために」
 資料「輪投げはやめた」
 (出典：「明るい心」4年 県教振)



【ねらい】
 人の意見に惑わされず、自分でよく考えて行動しようとする気持ちを高める。

道徳①

資料「友達のけっせき」の実践紹介（抜粋）

【展開前段】

T：主人公の行動や考え方で、こうすればよかったと思うことは何ですか？

C：雨が強く降ってきたときに、試合をやめようと言えよかったです。

T：でも、みんなを説得できなかったよね。

C：自分だけでも試合を辞めればよかったけど、僕には難しいかもしれない。

C：後のことを考えて言えたら、すごいと思うよ。

【展開後段】

T：なるほど。ではみんなには、後のことを考えて言えたり行動できたりした経験はありますか？

節度ある行動について考えさせるために、主人公の行動について考えさせた。



節度ある生活の大切さについて気付かせた後に、後段へと導いた。

常時活動

「つつい追放大作戦」の様子

- ① 一日の中で「つつい」してしまったことやしそうなことを、帰りの会で想起させる。
- ② その「つつい」に対して、自己評価（我慢できたか、できなかったのか）を記述する。
- ③ これを1週間実践し、最後に全体を振り返る。

「つつい追放大作戦」の様子

日	月	火	水	木	金
1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30
31					

【作戦の感想】

自分自身で「つつい」を減らすことができました。また、友達も「つつい」を減らすことができました。これからも「つつい」を減らすために頑張ります。

道徳②

【導入】

資料「輪投げはやめた」の実践紹介（導入～展開後段）



「つつい大作戦」をやってみて、どんなことを思いましたか？

【授業のポイント】

常時活動を振り返る。

「つつい」を我慢できるときと、できないときがあって難しかった。



今日のお話の主人公も、みんなと同じ「つつい」に負けそうになりますよ。

【展開前段】（資料「輪投げはやめた」を読んだ後）



友達にもう一度輪投げに誘われたとき、主人公はどんな気持ちだったでしょう。

道徳④

つつい負けそうになる主人公の気持ちに共感させる。

輪投げはしたかったけど、ボールを買うためなら仕方ないな。



これでサッカーボールが買えるぞ。



【展開後段】



主人公の行動や考え方で、こうすればよかったと思うことは何ですか？

節度に対する考えの深まりが見られるように、道徳①と同じ発問をする。

自分なら、つつい誘惑に負けてしまうけど、主人公は「つつい」に勝ててすごい。



自分が決めたことを、最後までやり通せるところは自分も見習いたいな。



つついしてしまうことがたくさんあるけど、よく考えて行動することって大切だな。



自分の経験を振り返ることで、節度に対する考えに深まりが出た。



実践後なう

実践が終わった後でも「先生、今日も『つつい』に勝てたよ」とうれしそうに報告してくる子どもがいました。廊下を走ったり、チャイムの合図を守れなかったりする子どもはいますが、実践後はその数が減っているように感じています。

「どうせできないもん」からの脱却

【小学4年生】

～やり遂げることの大切さについて考える2週間～

道徳①

「がんばるって、
いいよね」

資料「一輪車」

(出典：「明るい心」4年 県教振)



【ねらい】
最後まで諦めずに頑張ることのよさに気付く。

学校行事

「運動会」



【ねらい】
チームの勝利のために、最後まで諦めずに頑張る気持ちを育てる。

道徳②

「あきらめないで
やってみよう」

資料「国産自動車の父」

(出典：「明るい心」4年 県教振)



【ねらい】
自分でやろうと決めたことを、最後までやり遂げる気持ちを育てる。

道徳①

資料「一輪車」の実践紹介（抜粋）

【展開前段】

T：あゆみさんの練習する姿を見た主人公は、どんな気持ちだったでしょう。

C：あゆみさん、転んでも頑張っているな。私も、頑張ろう。

C：あゆみさんはあんなに頑張っているのに、私は諦めるなんて、だめだな。

T：そうだね。諦めずに頑張ることってすてきなことだね。今までに、諦めずに頑張った経験はありますか？

【授業のポイント】

練習を頑張るあゆみさんを見た主人公の気持ちに、しっかりと共感させる。

頑張ることのよさを学級全体で共有する。

学校行事

「運動会」の様子

4年生の学年種目は、台風の日であった。最初は相手の赤組がリードしていた。しかし、白組も最後まで諦めずに相手の赤組を追いかけ、僅差で白組が勝った。白組は喜び、赤組はとても悔しかったが、4年生全体の最後まで諦めない姿に対して拍手が送られた。



道徳②

【導入】

資料「国産自動車の父」の実践紹介（導入～展開後段）



運動会の「台風の日」では、最後まで諦めずに頑張ったね。あのとき、どんな気持ちでしたか？

【授業のポイント】

学校行事を振り返る。

とってもうれしかった。興奮した。



赤組も最後まで頑張っていたね。今日は、諦めないことについて考えましょう。

【展開前段】（資料「国産自動車の父」を読んだ後）



部品が手に入らなかったとき、主人公はどんな気持ちだったでしょう？

道徳中

車を作りたいけど、部品がないからしょうがないか。でも諦めたくない。



運動会の「台風の日」で赤組にリードされたとき、どんな気持ちでしたか？

学校行事を振り返ることで、主人公の気持ちに共感させる。

このまま負けちゃうかな。でも諦めちゃだめだ。



そうだね。それって主人公の気持ちと同じなんじゃないかな。

【展開後段】



諦めずに頑張れた経験はありますか？

自分の経験を振り返ることで、やり遂げることの大切さについての考えに深まりが出た。

諦めてしまうこともあったから、これからは、もっと縄跳びを頑張りたい。



実践後なう

実践後、子どもから「掃除を最後まで頑張ったよ」など、最後まで頑張れたことを報告してくれることが増えました。体験を通して諦めないことについて考えたおかげで、子どもたちがそのよさを実感できたようです。

男と女の友情ってアリ？ **【小学校5年生】**
 ～男女で仲良くすることの大切さについて考える2週間～

道徳①

「男女のよさとは」
 資料「ナイスシュート」
 (出典：「明るい心」5年 県教振)



【ねらい】
 男女で協力して活動することのよさに気付く。

常時活動

「こだわりの掃除場所
 キャンペーン」



【ねらい】
 生活班の男女で、協力して清掃活動に取り組むことができる。

道徳②

「男女で協力するために」
 資料「言葉のおくり物」
 (出典：「5年生の道徳」 文溪堂)



【ねらい】
 男女で仲良くしていこうする気持ちを高める。

道徳①

資料「ナイスシュート」の実践紹介（抜粋）

【展開前段】

T：ようこさんのチームの練習を見たとき、主人公はどんなことを考えたでしょう。

C：あんなふうに練習ができるなんてすごいな。

C：自分たちも男子に言ってみようかな。

【展開後段】

T：私たちのクラスの異性のよいところを、「ナイス〇〇」と書いて説明しましょう。

さんの、ナイス 手っ早い

トイボックスのとき、人がこぼしたとき、こぼれたらすぐにきこくねました。

【授業のポイント】

男女が協力することのよさに気付いた主人公に共感させる。

普段の生活の中で、男女の協力ができているところを振り返らせる。

常時活動

「こだわりの清掃場所キャンペーン」

この活動は、同じ場所を1か月間清掃させるという実践である。清掃場所に愛着をもたせた上で、そこをいかにきれいにできるかについて、男女で話し合わせた。子どもたちは、普段よりよく話し合い、掃除方法を工夫したりポスターを作ったりするなどしていた。



道徳②

【導入】

資料「言葉のおくり物」の実践紹介（導入～展開後段）



「こだわりの清掃場所キャンペーン」で、どんなことを思いましたか？

【授業のポイント】

常時活動を振り返る。

いつもより班で協力して、掃除ができたね。



みなさんは、班の中でどんな声掛けをしていましたか？思い出しながら話を読みましょう。

【展開前段】（資料「言葉のおくり物」を読んだ後）



友達に女子と話したことを冷やかされたとき、主人公はどう思ったでしょう。

女子と仲良くしたくない気持ちに共感させる。

変な疑いをかけられたくないから、もう仲良くしたくない。



女子からの言葉の贈り物を聞いたとき、主人公はどう思ったでしょう。

男女で仲良くすることの意味について考えさせる。

あんなふうに思って悪かったな。



誰とでも仲良くすることが大切なんだな。



【展開後段】



異性からどんな言葉を掛けてもらいましたか。

日常を振り返ることで、男女で協力することの大切さを自分のこととして捉えさせた。

代議員の女子と、「今日もうまくいってよかったね」と言い合ったこと。



前期の学級委員に立候補した後に、「頑張って立候補したね」と男子が言ってくれたこと。



実践後なう

実践前は、男女の仲はあまりよくありませんでしたが、実践後、男女で協力して委員会や係活動に取り組む姿が見られるようになりました。また、互いに声を掛け合う姿が学級全体で見られるようになり、学級としてのまとまりを感じるようになってきました。

V 夏季道德講座

8月20日、中区生涯学習センターにおいて、毎年恒例の「夏季道德講座」を開催しました。

道德エキスパート
による

道德授業の「ポイント」「コツ」の伝授

道德の授業を進めるにあたっての、ポイントやコツを教えてくださいました。

道德は、心の種まきです。日頃から、小さな種を少しずつ蒔けるといいですね。



学年に応じて、ねらいの設定を変えることで、一つの資料を様々な学年で使うことができます。

【甘軒家小学校長
平手孝幸先生】

★ 参加者の声 ★

- ・ ねらいの立て方を発達段階で変えていくという視点は、とても新鮮でした。
- ・ 資料を読み込むことの大切さがよく分かりました。

道德授業達人
による

道德の模擬授業と分かりやすい解説

資料「おばあちゃんの指定席」を使って、模擬授業を行いました。

発問を工夫するだけで、子どもたちの考え方が広がります。



この場面では、どんな発問が考えられるでしょう。

【天白養護学校
加藤英樹先生】

★ 参加者の声 ★

- ・ 同じ資料でも、いろいろな発問の仕方があることが分かりました。違う視点から発問できると、子どもの考えが深まることがよく分かりました。
- ・ 道德の授業のポイントをたくさん教えてくださいました。授業形式だったので、実際の発問の仕方が具体的に分かりました。

VI まとめ

本部会では、「道徳的実践力を高める道徳教育」を研究主題として、複数の道徳の時間と各教科等を関連させた「ユニット学習」に焦点を当ててその有効性について考えてきました。実践を行った部員からは、次のような声が聞かれました。

実践後の部員の声



- 子どもたちが活発に発言するようになり、道徳の時間が子どもも私自身も楽しくなりました。
- ユニット学習をすることで、普段から学習したことに関する会話が聞かれるようになりました。
- ユニット学習をしていないときも、関連した学習を少し振り返るだけで、子どもが体験を基に発言するようになりました。

また、次のような成果と課題が出されました。

成果

- ユニット学習を行うことで、道徳的価値を自らの体験と結び付けて考えさせることができ、道徳的価値を自分のこととして捉えさせることができるようになった。
- また、道徳の時間と各教科等が子どもの中でつながることで、道徳的価値に対する考えを深めさせることができた。
- 以上に加え、普段の生活の中で、道徳的価値について意識している姿が見られたことから、ユニット学習は子どもの道徳的実践力を高めるのに有効であったと考える。

課題

- ユニット学習後にも、道徳的価値について継続的に考えさせる手だてを工夫をすることで、さらに道徳的実践力が高まることが期待できると考える。
- 本年度の実践では、限られた道徳的価値でしかユニット学習を行えなかった。今後は、本年度取り上げなかった道徳的価値においても、ユニット学習を行うことが有効なのかについて、検証していく必要がある。

本年度のあゆみ

月	日	テ マ 研 究 部 会	授 業 づ く り 研 究 部 会
4	9	研 究 部 員 募 集	
5	10	研 究 部 員 総 会	
		・ テーマについての共通理解	・ 目指す子ども像・授業像を語り合おう
	23	・ 「温かい心」について考えよう ・ ユニットの利点を考えよう	・ 子ども自らが考えたいくなる 学習過程のポイントやコツ
6	13	・ ユニットを組んでみようⅠ	・ 子ども自らが考えたいくなる 「発問」のポイントやコツ
7	18	・ ユニットを組んでみようⅡ ・ 授業を検討してみようⅠ	・ 子ども自らが考えたいくなる 「板書」のポイントやコツ
8	20	夏季道德講座 ・ 道德エキスパートによる 道德授業の「ポイント」「コツ」 ・ 道德の授業達人による「模擬授業」	
	22		・ 子ども自らが考えたいくなる 「書く活動」のポイントやコツ
9	9	・ 授業を検討してみようⅡ	・ 模擬授業をもとに検討Ⅰ
	22	・ 「授業研究」リハーサルへの参加	・ 「授業研究」リハーサル
	30	・ 模擬授業で授業を検討してみよう	・ 模擬授業をもとに検討Ⅱ
10	4	道 徳 授 業 研 究	・ 研 究 協 議 会
	28	・ 授業を検討してみようⅢ	・ 授業研究の成果と課題についての検討 ・ これまでの実践における成果と課題
11	13	・ 研究のまとめの最終検討 ・ 研究発表会についての話し合い	・ 研究のまとめの最終検討 ・ 研究発表会についての話し合い
12			
1	10	研 究 発 表 会 準 備 ①	
	14	会 報 発 行	
	20	研 究 発 表 会 準 備 ②	
	23	研 究 発 表 会 リ ハ ー サ ル	
	29	研 究 発 表 会	
2	10	次 年 度 へ の 方 向 性 の 検 討	
3			

※ 役員会 ①5/10 ②5/30 ③6/20 ④7/25 ⑤9/17 ⑥10/7
⑦11/21 ⑧1/15 ⑨2/17 ⑩3/26

※ 1月以降については、予定が掲載されています。

あ と が き

震災等の大災害が起きると、必ずと言っていいほど、外国のニュースで「日本人のモラルの高さ」が話題となります。例えば、コンビニエンスストアや給水車などに、大行列になっても整然と並んでいる…そんな日本人の姿に、驚嘆の声があがりました。

しかし、当事者の方たちは、きっと「当たり前のことをしているだけ」と思っていたのではないのでしょうか。つまり、日本人が、当たり前のことをしていても、「日本人はすごい！」となるのです。

そうすると、私たちが目指す道德教育とは「当たり前のことを当たり前に行えるようにする」あるいは「当たり前のレベルを上げる」ことだ、と言い換えることができるかもしれません。

本研究会では、平成17年度から「心輝け！子どもたち」をテーマとし、今年度は「授業づくり研究部会」と「テーマ研究部会」の2部会で活動しています。どちらの部会も、子どもたちの心の成長のために、道德教育に求められている課題に取り組むとともに、教師一人一人が授業技術の向上を目指して、研究を重ねてまいりました。

「授業づくり研究部会」では、昨年度の研究を基に、道德の時間、子どもたちが授業の最初から最後まで集中力を持続させる授業に挑戦しました。どうすれば「よりよい授業＝子どもたちが“ときめく”授業」になるのか、考えに考え、研究を重ねてきました。

「テーマ研究部会」では、今年度、新たに「ユニット学習」を提案しています。2週同じねらいの授業を続けることで、より効果的な指導ができないか研究を重ねてきました。こちらも、昨年度までの「関連プログラム」の実践が財産となっていることは言うまでもありません。

今後も心の教育はより大切になっていくことでしょう。心の教育を推進していくためにも、期待に常に応えられるような研究会でありたいと考えます。そして、今年度の実践の記録が、少しでもそれぞれの学校現場で役に立つ実践となっていることを期待しております。とはいえ、まだまだ十分な研究ではありません。この会報をご高覧いただき、気付かれたことをご指摘いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、本研究会に対しまして格別なご指導、ご支援を賜りました先生方ならびに関係諸機関の皆様に心よりお礼申し上げます。

名古屋市道德研究会委員長

那古野小学校 寺尾 奨 宏

会報作成資料提供者及び執筆者

岡田 陽介	(田 代 小)	脇田 健太郎	(昭 和 橋 小)
山部 あゆ	(田 代 小)	児玉 香予子	(神 宮 寺 小)
森 由香里	(山 吹 小)	柳田 一帆	(廿 軒 家 小)
畑 直哉	(城 西 小)	伊藤 みずき	(小 幡 北 小)
加藤 みゆき	(笹 島 小)	大橋 広道	(緑 小)
道祖尾 正幸	(名 城 小)	松下 恭平	(黒 石 小)
吉田 貴章	(八 事 小)	辻 由佳	(植 田 南 小)
内山 幹夫	(陽 明 小)	北川 沙織	(平 針 北 小)